

1 日 時：平成 31 年 2 月 16 日（月）14 時～15 時 30 分

2 会 場：三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

[委員] 田中満公子委員、今西邦夫委員、井上博史委員、松原英夫委員

[学校側] 小嶋信男校長、高崎克司教頭、三木敬之事務部長、
田中和代首席、恩智理指導教諭、駒井泰之教諭、北出眞理教諭
吉田まちの教諭、稲木悠一教諭、山本那由教諭

4 次第

① 校長挨拶

京大見学会について、現 1 年生は来年度の 7 月に実施予定、新 1 年生は例年通り 1 1 月に実施予定

② 会長より確認

- ・学校協議会から学校運営協議会に変わったことで、学校組織管理に関する指針が改訂された。
- ・H30 年度、H31 年度学校経営計画および学校評価の承認を行う。
- ・定時制の H30 年度学校経営計画及び学校評価についても承認を行う。

③ 平成 30 年度学校評価（案）について（報告）

④ 学校教育自己診断 結果について（報告）

（委員）土曜授業の効果は生徒と教員が否定的で、保護者が肯定的なのはなぜか。

（学校）土曜日に授業を行うことか、総単位数を確保することについてなのか、質問の意図が二重にとれてしまう。土曜授業に関してはこれから検討が必要である。

（委員）教員が土曜授業に否定的（70%）なのは学校経営として問題なのではないか。また、教員のアンケート回答率が低いのが気にかかる。

（委員）ICT の活用に関しては非常に肯定的である。教員の努力がうかがえる。

（委員）大学受験に必要な科目を増やしてほしいということに対して、何か対応策があるのか。

（学校）例えば英語は 4 技能の授業を行っていることが大学受験対策になっている。講習、添削、面接指導の実績値を明らかにすることで、個別指導をしていることを明示し、全体で共有する。

（委員）大学受験に必要なでない科目も必要である。生徒や保護者に対して、重要性を強調するべきである。

⑤ GLHS・SGH・SSH の各取り組みについて（報告）

（1）SGH の取り組みについて

（2）SSH の取り組みについて

（委員）SGH で培った三国丘の知的財産を今後どのように活用するか、基金運営委員会を早めに関き、検討したい。

（委員）SGH がなくなるのは非常に残念である。

⑥ 各学年の状況について

（委員）学年集会はどのようなことを行うのか。

（学校）先日の学年集会は新入試のことや、教育課程変更について話をした。生徒指導も行っている。

(学校) 学年で団結することを目的としている。

⑦ 平成 31 年度学校経営計画 (案) について

(委員) これからの三国丘高校の課題はなにか。

(学校) 新入試にむけてリスニング力を強化していきたい。新しい流れに乗りつつ、2 次試験の得点もとれるように指導していきたい。

(学校) 次年度から探究の生徒数が 2 倍になるので、指導のスキルを上げ、体制を整えたい。

(学校) 進学実績を上げることが重要である。入学してくる生徒に対して、出口の保障をしなくてはならない。

(学校) 教育予算が減っていく、人も少ない中、学校経営計画を実現するのは難しいが、予算内でなんとかやりくりしている。危機管理は生徒を守るという観点で非常に重要であるので、備蓄物計画的な配備に取り組んでいる。

(委員) 教育予算は年々減っているのか。

(学校) 教育予算で一番かかるのは人件費である。ただし人件費は削れないので、残りの予算を計画的に使っている。

(委員) GTEC の平均点はどのくらいか。

(学校) 1 年時で実施したところ A2 レベルに達していない生徒が 50 人ほどで、2 年時で実施したところ約 50 人と変わらない。生徒には A2 レベルは保障していきたい。

(委員) 留学にはどのレベル必要なのか

(学校) 留学するには TOEFL が必要。GTEC は高校生むけにベネッセがつくったものである。

(委員) GTEC での目標値を定めるとよいのではないか。GTEC で TOEFL に換算できるとよい。

(委員) 経営計画で数値目標が毎年変わっていないのが気になる。昨年より高い目標設定をしてはどうか。

数値目標はどのような基準で設定しているのか。維持目標であれば「維持」と明記すればいいのではないか。現役合格率、医学部合格率をあげていく (明示する) など具体的な目標を計画に盛り込むと、勉強をどのようにさせればいいのか、自ずと案がでてくるのではないか。

(学校) H29 年度について、現役合格は半数ある。意識はしている。

⑧ H30 年度、H31 年度学校経営計画及び学校評価 承認

定時制課程 H30 年度学校評価および H31 年度学校経営計画 承認

⑨ その他

(委員) 現場の教員の想い「三国丘の生徒をどうしていきたいか」を、共通意識として経営計画に盛り込んでほしい。また、緊急事態発生時、生徒の安否確認をした上で、教育の継続ができるようにしなければならない。

(委員) 試験の振り返りはどうしているのか。生徒に振り返りノートをつけさせるのはどうか (ポートフォリオの利用)。自分なりの反省をして、自学自習を促進する方向に向かえるのではないか。

(委員) 教育が大きく変わろうとしている中で、三究会 (若手教員の勉強会) を充実させてほしい。それが生徒の進路を実現することもつながるのではないか。